

# PHD LETTER

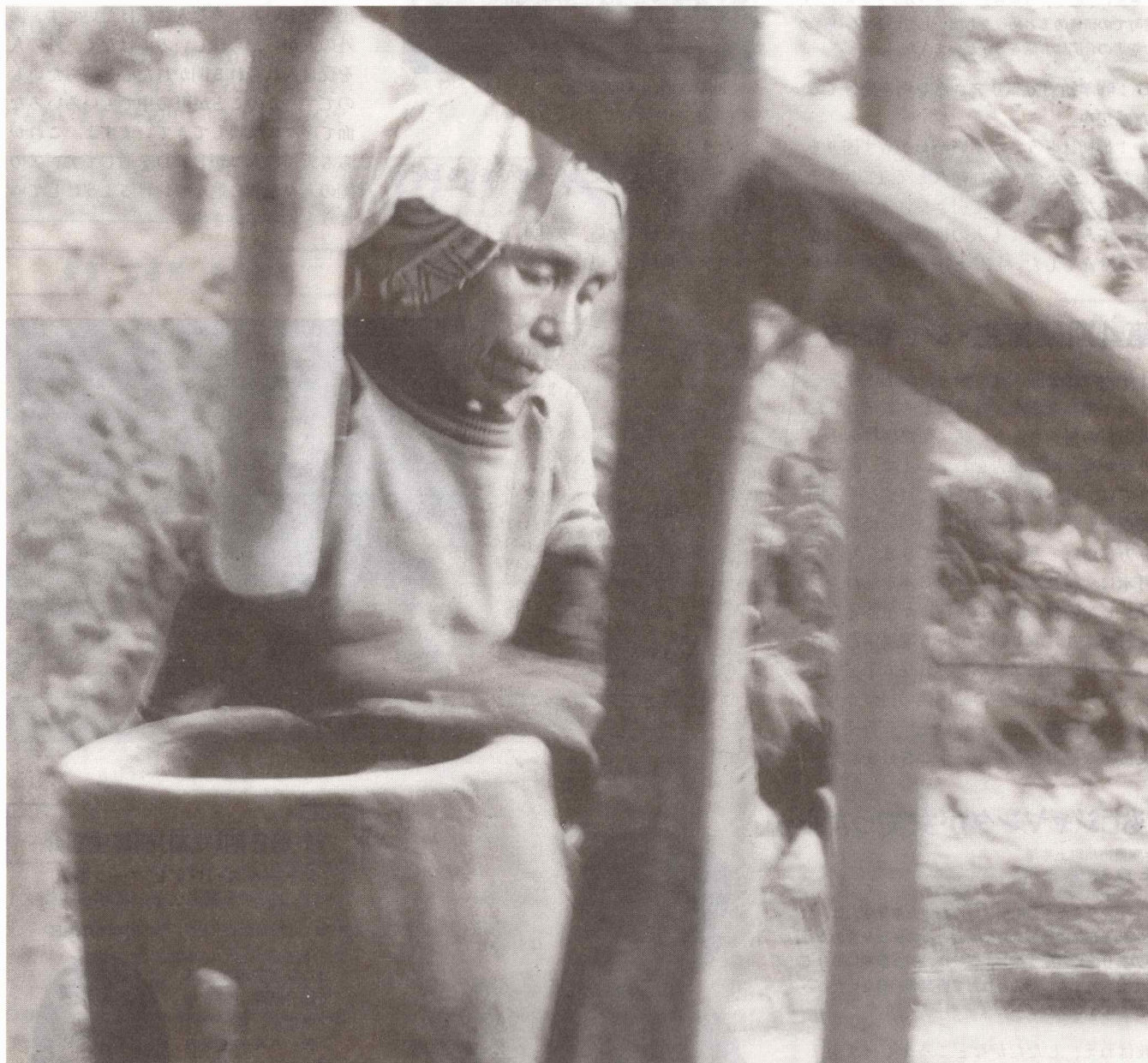
## 〈23〉

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT 1987・6

PHD運動とは1962年(昭和37年)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace) 健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development) 運動を世界中にひろめることを目的として、1981年(昭和56年)からはじまりました。

発行:財団法人PHD協会  
編集人:草地賢一  
住所:〒650 神戸市中央区元町通5-4-3  
元町アーバンライフ202 TEL(078)351-4892  
郵便振替:神戸1-29688財団法人ビー・エイチ・ディー協会  
定価:100円  
レイアウト:エフ アンド エフ

- 特集「PHDの新しい事務所」……………P4～5
- 草の根の人々を訪ねて—Report from Asia & South pacific……………P6



タイ北部カレンの山村で(撮影:宮本進・箕面市)

ここには電気はきていない  
お米を搗くのもウチで作ったウスとキネ  
テレビのドラマやショーは知らないけれど、  
晩の支度を手伝いながら家族の誰かとおしゃべりタイム  
ばあちゃん、もうあとちょっとで、今日のお米の搗きあがり

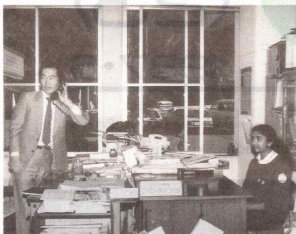


# 研 修 生 レ ポ ー ト

## 「開かれた心を大事に」

兵庫県大屋町教育委員会社会教育主事  
濱俊男先生

兵庫県大屋町。この町は明延鉱山の閉山で一躍スポットを浴びました。兵庫県北に位置するこの町を活性化させるべくがんばっておられる方のお一人に、濱俊男さんがおられます。濱さんは、昨年の第4期生ベリアさんに引続き、今年もまたニールカントキさんの大屋町での研修のまも役をお願いしています。研修のご指導の機会にお話をうかがいました。



お仕事中の濱さん・大屋町役場にて

Q：昨年初めてベリアさんを引き受けてみた感想を。

A：最初はどのようにかわからず困りましたが、せつかく海外の人と交流できるチャンスだからと思って引き受けました。終わって来て、とても人の世話をしたとは思えませんでした。私にとっての勉強、経験

となりました。  
Q：研修生達との交流を通して感じることは？  
A：言葉も知らない、文化も違う国でホームステイをして、更に自分の国に持って帰

## 第4期研修生・ジャヤンタ

1年の研修を間もなく終え、帰国の途につくジャヤンタさん。6月はじめに来日した、彼の村の村長さんと一緒に研修現場をまわりながら、研修報告をしています。農業研修では、日本農業の良い面だけでなく、問題点をも学び、自分の村の今後の農業のあり方について考えることができました。6月末に、村長さんとともに日本を離れ、フィリピンの村に滞在し、住民が主体となって村づくりに取り組んでいる現場学習を行い、7月上旬にスリランカに帰る予定です。ジャヤンタさんたちの帰国後の村づくりを長い目で応援したいと思います。皆様、ご支援・ご協力をありがとうございます。

わたしは、日本に P.H.D の研修生として、6月 7日 午後 1時 30分 羽田空港に到着しました。村長さんと一緒に研修現場をまわりながら、研修報告をしています。農業研修では、日本農業の良い面だけでなく、問題点をも学び、自分の村の今後の農業のあり方について考えることができました。6月末に、村長さんとともに日本を離れ、フィリピンの村に滞在し、住民が主体となって村づくりに取り組んでいる現場学習を行い、7月上旬にスリランカに帰る予定です。ジャヤンタさんたちの帰国後の村づくりを長い目で応援したいと思います。皆様、ご支援・ご協力をありがとうございます。



スリランカの歌をうたうジャヤンタさん

## 「もしジャヤンタが女だったら…」

兵庫県市川町上牛尾  
牛尾武博さん

ジャヤンタさんをお引受けいただいた牛尾さんは、会社勤務を15年続けるうちに、会社での毎日を含めた社会のあり方に疑問を感じ、退社後、有機農業に取り組んでおられます。そのとれたて野菜の料理をいただきますからのインタビュー。



熱っぽく話される牛尾さん

彼はねえ、したたかなところをもっていますねえ。もちろん本当はまだ若いです。よく働き、もし日本にいたら会社で出世するタイプですよ。もし彼が女性だったらとくにできてしまったんやないかと思えますよ。それ位、肌の色や顔の造りなんて気にならないんですけど。人間てほんとに同じだなと思いました。いつから農業やっていると日本に住んでる以上は第3世界の搾取の上に成り立ってる、という気がするんです。(ジャヤンタ

さんを引き受けたのは) 少しでもお返しのできればと思ったからです。これからもし、研修生を受け入れるとしても技術的なことなんてよう教えられませんが、ただ一緒に生活して、自分の毎日を見てもらうことが何かヒントになれば、と思いました。ウチの子供たちが、海外の友だちと感じてくれたことが何物にもかえがたいなあと思いました。

ろうとしているのは、日本の若者ではなかなかできないことではないでしょうか？人の為に何かをするということをし振りに思い出させてくれました。

Q：研修に対する濱先生の抱負は？  
A：山の中の村ですから地域の中で国際交流が出来るように研修生と地域の人々との出会いをいろいろな人に広げたいです。海外の人がいたら珍しいのではなく、外人を受け入れられる開かれた心を持ちたいものです。このことが町の中でもいろいろな面で序々に反映してきていますよ。これからは大屋の人々がPHDを通してアジアの国の人々と共に進んでいけるようにしてゆこうと思っています。

## 研修生予定

	6月	7月	8月	9月
4期生	ジャヤンタさん 農業(稲作)	研修整理 日 研修 日	帰国	
5期生	アリさん 漁業(魚具・漁法)	兵庫県五色町 柳宅	研修 中間 整理	兵庫県五色町 柳宅
	ブラカスイさん 農業(稲作・稲垣組合)	兵庫県農業家庭 (播州・淡路地区)		兵庫県農業家庭
	ニールカントキさん 家政(生活改善)	兵庫県上郡町		兵庫県山村・ 長崎県等離島



初めて見る雪にはヤクブラカスイさん(左)杉岡さん  
「やさしさが印象に残りました」  
芦屋市松ノ内町  
杉岡悦さん  
神戸の親和高校の講師である杉岡さんは、お母さんとの二人暮らし。そのお宅に日本語研修中のブラカスイ・コマさんがお世話になりました。



ひな人形の前でニールカントキさんと彩子さん、奏子さん  
「はじめは英語ばかりだったけど」  
神戸市垂水区霞ヶ丘  
下西奏子さん(小4)  
彩子さん(中2)

ニールカントキさんが、来日してすぐ、日本語の勉強中お世話になった下西さんは、事務所でワープロ操作を中心に協力して下さっています。そのお母さんの助け舟を得ながらお宅の娘さんお二人にお話しをさきました。

私の家では朝はパンです。テーブルの上にお・さとうとひらがなで書かれた入れ物がおいてあって、コーヒーや紅茶にはそれからいれます。ニールカントキさんが来てすぐの時、ニールカントキさんが一口、紅茶を飲んで顔をしかめているので、どうしたんだろうと思ったんだけど、うちのみんなはすぐわけてわかって大笑いしました。でも、いつも夜おそくまで日本語の勉強をしていました。  
奏子  
日本語の学校のある元町から私の家の垂水まで国鉄に乗って通ったんだけど、2回、電車が垂水を通過するののって、明石まで行ってしまいました。でもニールカントキさんは習っていた日本語で男の人に聞いたみたいで、一人で帰ってきました。お母さんに私がこのことを言ったら、お母さんがニールカントキさんに「知らない男の人に聞いただめじゃないの。聞くなら中年の女の人にしなさい」と言っていました。でもニールカントキさんは「大丈夫、大丈夫、親切な男の人だったから」と笑って答えてたことを思い出します。  
彩子

## 5期研修生・サマリー

日本語研修を3月末に終えたブラカスイさんとニールカントキさんは、4月から現場実習に入りました。ブラカスイさんは農業、ニールカントキさんは、保健・婦人活動がテーマです。2人とも日本の農村の生活を体験しながら、様々な実習を通して8月からの長期専門研修に備えて、何が自分たちの村に有効か、考えているところです。3月に来日したアリさんは、4月末から漁業実習に入りました。瀬戸内の海に漁に出て頑張っています。



大吉さんとアリさん すっぴん意気投合しています  
「アリとは自然につきあえました」  
明石市藤江  
大吉史史さん

アリさんが日本語学習の間お世話になった大吉さんは、週に1回 点字の指導を27年間続けていらっしやいます。また、総理府のホストファミリーに登録し、これまでも海外からの留学生を数多くお世話なさっています。奥さんにもご同席いただきお話しをうかがいました。

今までの留学生達は、皆、白人だったのでこちらがなじむまでは少し時間がかかったのですがアリは同じアジアの人間のせいか何のこだわりもなくすぐに自然とつきあえたんです。日本語も初めから少し話せたこともよかったです。頭がいいんですよ。日本語がすぐに上達したし、家族でドラッグの神経衰弱をしたらいつもアリがトップでした。それにボーリングもうまいんです。インドネシアで1回したきりだというのに、スコアは150点出していました。フォームやボールの持ち方はあまりよくないですがね。アリは必ずまた帰ってくるからといって自分の歯ブラシをすてずに残していききました。それだけこの家が気に入ってくれたのかなと思ってうれしかったです。こうやって海外の人を受け入れているのは、私たちの世代にある外人コンプレックスを子供たちにはもっていかないからです。それで少しでも家庭で国際化の実践ができればと思うので、海外の人を受け入れているんです。

## 新・第5期(短期)研修生紹介

チャールズ・B・アビクーンさん  
(スリランカ)  
'87年6月来日

コロンボ空港から車で約2時間、ジャヤンタさん、ニールカントキさんの出身の村ポヤワラナから3人目の研修生を迎えました。'85年に村人に選ばれたまだ42才の村のリーダーです。奥さんとお子さんの、そして慈母という名がひたりのお母さんと古い大きな屋敷に住んでいます。お兄さんは、WHOの医者として現在インドのデリーで活躍中。PHDのタイトル「生きる事は分かち合う事」の村における実践者です。





### アジア・南太平洋の 研修生と話してみよう

「こんな山の村に外国人が来て、わしの家に住むなんて——。外国人との交流など、われらには関係ない、それは都会の一部の人間がすることだと思つた。知らん世界に目に向いたし、もう年老いてしまふけど、いつかあの子をたずねたい。新しい目標ができたわい」とはある村のおじいさん。こんな声を聞くことも嬉しく思います。

毎年、PHDが招くのは、アジア・南太平洋地域で、農業、漁業、婦人活動などに取り組んでいる村の若者。研修事業は、研修生を通じて地域の人々の自立のお手伝いをする事と研修生との生活交流から私たちが日本の暮らしを見つめ直すことを大きな目的としています。研修生は日本の各地で家庭滞在をしながら学びますが、これまで21人を迎えてきて、技術優先の研修よりも、お世話・ご指導いただく方々から、**考え方、ライフスタイル、**

まわりの人々との関係づくりなどを、生活を通して学んでもらうのが日本での研修になるのかなあと思っています。

今の日本は、モノやカネはあるかもしれないけれども、問題だらけです。研修生に胸を張って自慢できるところがどれだけあるでしょう。逆に、彼らから学ぶべきところか山とあるような気がします。遅れているから、可愛相だから、「助ける」「協力してあげる」といった一方通行的なものではなく、お互いの立場を理解・尊重した、ギブ・アンド・テイクの学び合い、分かち合いがPHDの研修事業だと思えます。

是非、皆さんのところでも研修生をお迎え下さい。ご家庭・学校・地域・グループ等々。遠方の皆さんにも東日本研修旅行(11~12月)、西日本研修旅行(1~2月)の折にお目にかかりましょう。コースのひとつに名乗りをあげてください。研修生と交わる事から、学んで、私たちの暮らしの中にも平和と健康をつくっていきましょう。アジア・南太平洋の人々とともに。

### 使わぬ損々 PHD協会 手にしてワクワクPHDグッズ

アジアのことはもちろん、くらしの中で興味を持ったこと、疑問に感じたことに突っこんでみませんか。入ってすぐ左手がPHDデータバンク。みなさんの活用を心待ちにしています。単行本、雑誌、会報、パンフレット、行事チラシ、スライド、パネル、16ミリフィルムいろいろあります。いくつかをアトランダムにリストアップしてあります。

### 国際交流・協力・援助・南北問題等

- 月刊国際開発ジャーナル
- 国際協力(国際協力事業団)
- APIC(国際協力推進協会)
- アジア通信(キリスト教アジア資料センター)

### 他NGO(非政府団体)会報

- 日本キリスト教海外医療協会
- アジア女子労働者交流センター
- アジアセンター 21
- アジア協会、アジア友の会
- シャプラニール
- カンボジア難民救済会
- 開発教育協議会
- アジア保健研修財団
- アジア学院
- 神戸学生青年センター

### 農漁業

- 国際農業協力
- 日本農業の選択(安達生恒)
- 熱帯の家畜・稲病虫害・園芸作物
- 土と健康(日本有機農業研究会)

### 外国語

- MODERN JAPANESE(テープ)
- 実用タイ語会話(テープ)
- BASIC TAGALOG
- タイ・日一日・タイ小辞典

### 医・食・保健

- 自然食通信
- 土からの医療(竹熊寛孝)
- 新しい薬用植物栽培法
- 薬用植物

### アジアの生活

- 世界の子どもたちシリーズ(備成社)
- ギタはインドの女の子

### 国内情勢・市民運動等

- 関西リサイクルニュース
- 写真集 水俣(径書房)
- 写真集 被爆者(森下一徹)

# みんなイキイキしています。



さわやかな広い  
コンクリート  
また新しい気持ちです

PHDの新しい事務所

### 政府関係資料

- 経済協力評価報告書
- 青年海外協力隊の歩みと現状
- 世界情勢と日本(外交青書)

### スライド・フィルム

- スライド/写真
  - 人を喰うバナナ(テープ付)
  - タイ農民のデビュー(テープ付)
  - ネパール、フィリピン、タイ、ビルマ、インドネシア、スリランカ、マレーシアの生活各種
- 16mmフィルム
  - 世界の屋根のヒゲドクター(白黒23分)
  - パングラデシュの大地に(カラー45分)
- 写真/パネル
  - 4つ切 ネパール
  - 全紙 ネパール、フィリピン
- ビデオ
  - 漁業に夢かける青年

### PHD紹介広報物

- PHDパンフレット(A4 3折)
- PHDレター(年4回 バックナンバー若干有)
- 年度報告書
- PHD感謝面りーフレット
- ポスター(59cm×41.5cm・カラー)

### PHD GOODS

- オリジナルTシャツ  
(大人: ¥2000・子供用: ¥1500)
- オリジナルレナー  
(S・M・L: 各¥3500)
- アジア絵ハガキ  
(2種 ネパール/フィリピン/タイ/インドネシア/各¥200)
- 書籍「K O B E 発アジア」: ¥980  
「いれぶんネパール」: ¥780
- その他アジア・南太平洋の民芸品

個人によるお求めはもちろん、各地のバザーなどにもお送りします。各種イベントがあれば一声かけて下さい。

### 話し学び考えみだしとをくりつくる 共に生きるためのマルチバーススペース

毎日いろいろな人と出会うことはとても刺激的。ここで月一回中学生や高校生達が集まってワイワイガヤガヤ、学校では話さずに話題やみんなの本音がとびかいます。と思うと堆肥の作り方にネグロス島の農民のハナシが交錯するといった会なのです。若者なら誰でもOK! 一方私はもう若者ではないと感じる方々には、現在仮称「ゴザの会」を企画中です。アジアの話題を中心に少し突っこんだ話し合いのサロンにしたい。さらにここを基地にPHDの仲間によるパラティ豊かな活動をつくりだしたいのです。5月の下旬にやった関西ミニメディア祭のカラー屋出店のアイデアもここで練られたのです。皆さんが今お読みのレタ

### 一人一人の身のまわりにPHDを

この事務所がPHDのすべてでは、ありません。PHDの現場はむしろ外にあります。研修生との交わりは当然、セミナー・学習会・説明会など神戸にとどまらず出前しますし、バザー、アルミ缶回収ウォーク、夏の合宿「草の根生活塾」、アジア・南太平洋の草の根の生活現場へのスタディツアー。

またPHDの仲間の方でこんなプログラムを運営しているところか、新しい企画大歓迎! PHDを使って、学び考え、そしてそれぞれの毎日に反映させて下さい。一人一人の生活の現場こそが、「生きることは分かち合うこと」というPHDの実践の場なのです。

田辺健三さんのプロフィール/映画と文章のお仕事をされている田辺さんは第2期生ラダさん(ネパール)が姫路でお世話になったときにご縁ができました。近所の子どもと子供文庫や「うたあそび」の集まりをつけておられます。月1回の私的ミニ通信「樺書(ハガキ)通信」は1600人の方々に楽しんでいます。また今、毎週月、火曜午後ラジオ関西「とんとんトーク」やという番組のパーソナリティも。昨年暮にはPHDのスタディツアーでネパールの農村を訪ね山のようなスケッチをモノにされました。奥さんと娘さんの3人家族。39才。姫路市保城150-3。



# 草の根の人々を訪ねて Report from Asia & South pacific

## 新しい出会いと交わりの時

韓国の農村指導者が3月末に新しい会を発売させた。今迄①アジア学院の同窓会だったものを改組して、アジアの農村開発に目を向けようということのようだ。私はその総会にアジア学院の菊池副校長と共に招かれ、話をさせていた。PHDとも新しい関係を築げ、韓国の農民の知恵をアジアの草の根に分ちあいたいとの意向が示された。歓迎したい。

韓国から、3月26日若王子事件の大詰めを迎えていたマニラに着いた。余談だが、この事件はフィリピンの民衆からはまったく関心を持たれていないようだった。首都には一時間程滞在しただけで、すぐ②ウィラット、ペリヤが地域組織事業の実習をさせていた村を訪ねた。彼等の次の報告はとも興味深かった。

自分達は農業や保健の専門家として村へ帰るのでない。むしろ村の中でみんなが意見を出し農業や保健のことを問題にする。それをどのように解決しようかという時、自分達が日本で得た技術や経験を分かち合う。——ここに村づくりの出発点がある。

私達が目指している多国間交流の比較研修の一部が実現し始めた。今後更に韓国、フィリピンの草の根の人々の協力を得て出会いと交わりを深めていきたい。

第三の訪問先、東マレーシア、サラワク州シブの町にユニークな活動をしている開発団体を訪ねた。マレー系、中国系、インド系、そして差別を大きく受けている少数民族イバンの人々。マレーシアは本当に複合民族国家だ。事務所の中は英語、中国語、イバン語、時にマレー語が飛び交っている。他の場所では余り見られない中国系とイバンの人々の協働がこの団体の中に成立している。差別されているイバンの人々の経済的、社会的自立を目指して人種、言語を超えた働きが起きていることに驚いた。プログラム展開も興味深い。つまりイバンのコミュニティから青年が起き、彼等に農業、保健、識字教育等の技術を訓練する。そして更に地域組織化事業の訓練を与えつつ自身のコミュニティに派遣する。私はこの団体の中に望ましい農村開発の型を見たような気がする。開発は外からでなく内から始まる時、継続性や自律性も高くなる。



英語の中に時折中国語が入った農業学習。それをイバン語に翻訳して聞く。本当にマレーシアは複合国家です。

シンガポールでPHDを支援して下さる日本人グループを訪ね、この度も貴重な献金をいただいた。4月9日夜ここを発ち、10日朝、待望のパパニューギニア(PNG)着。東南アジアの空の玄関に較べて貧弱な感じである。よく見ると空港内の色々なカウンターにはパパニューギニアの人、そしてその奥にはオーストラリア人が座っている。2週間の滞在中、旅行社、銀行、ホテル、大学等と同じような風景に出会った。又、すべての国内便もパイロットはオーストラリア人だった。

人口349万、言語は文化人類学者によれば728のと言。単純計算で約4500人が一言語社会(ワントーク)を構成することになる。共通語は英語、ピジン語、しかし実感的に共通語が使えるのは限られた人々でまだま

だ村落社会には必ずしも及んでいないのではない。豪州から独立してまだ12年。ある人類学者は石器時代から一足飛びに近代へ来てしまった。このギャップはどうやって乗り越えるのかと聞いているようだ。確かに村で石斧、ヤジリ、弓、やり等石器時代のもものとカンヰム、電気、自動車も同時に用いられているのを見るとそんな感じもする。



パパニューギニア チンブー山の山村で奉仕する青年海外協力隊員と村人だ。小さな協同組合が生まれ、村起こしが始まっています。

アジアの中で考えていた農村開発に対する理解と南太平洋のそれは必ずしも一様に同一視することは出来ないのではない。よく開発途上と言われるが実感的に村の中で考えたことは開発以前ということであった。同時に改めて開発とはどんなことを言うのかその内容、方法についてももう一度問い直す必要を感じた。



レネの村でコミュニティオーガニゼーション(地域組織化活動)の実習をしたウィラット君とペリヤさん。二人ともこの村の人に愛された。(フィリピン)

PHDが今考えていることはともかく外からモノ、カネ、技術を導入して農村が工業化するのを発展と思わない。あくまで村の中で村の人が必要と考え、やねばならぬことを実践する契機が作られる。その契機を作れる人が草の根人材交流の中で起きる。ここがPHDの援助でなく交流を重視する点である。

新たに始まる南太平洋の草の根の人々との出会いを通して、我々はアジアからだけでなくより広い学びをする時に来ていることを感じながら赤道直下のPNGを後にした。

草 地 賢 一

## 総主事メモ 7年目を迎えるPHD 総主事 草地賢一

岩村昇博士によってPHD運動が提唱されたこの6月で6年が過ぎました。皆様のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。この過ぎ越し方を振り返りますとまさに奇跡のような感じがします。モノとカネが価値の中心のように思われる日本の社会の中でまったく見返りの無い会費、寄付を捧げ続けて下さる方々が7年間に延べ16,000人、またその総額は1億4800万円にもなります。くり返しますが、これはまさに奇跡だと思います。その中でも特に私達の心を

打ち、また大きく奮い起こさせるエピソードを紹介したいと思います。

第2期生サンバ・カヤスタ君(ネパール)が語ってくれたものです。彼は、1984年2月、名古屋のある病院でリハビリテーションの実習をしていました。この病院に入院していたあるおばあさんが、病院から毎週支給されるティッシュペーパーを使わず何度も使い古したハンカチでハナをかむ。そして貯めたティッシュを看護婦さんに頼んで換金してもらい、それをPHDに捧げて下さった。このおばあさんに出会うまで、彼は金持ちの日本が後進国の我々に援助するのは当たり前だ。自分は滞日中に出来るだけ金も物も沢山もらって帰ろうと考えていましたが、「PHD、そして研修生である私

はこのような人々によって支えられ学ぶことができていたのだ。私もネパールに帰ったら便利で安楽なカトマンズの生活を捨て本当に苦しんでいる山の人に仕えなければならぬ」と感じたようです。

彼は帰国後、カトマンズでの安定した臨床検査技師の仕事を手放し、首都から1週間もかかる西ネパールの山に入っていったのだ。

「受けるより与えることは幸いである」という聖書の言葉を文字通り実践されたこのおばあさんの行為が、遠いネパールの青年の生き方を変えたのです。

「生きることは分かち合うこと」この実践は必ずPHDに続けて奇跡を生む事でしょう。

# PHD NEWS

## 会費・ご寄附 寄託状況

2月	111件	1,818,590円
3月	175件	1,847,762円
4月	332件	2,350,783円
計	618件	6,017,135円

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴いたしました。ご協力に感謝申し上げます。

## 第4回アルミ缶回収ウォーク

アルミ缶を集め、研修生を支える費用とする缶回収ウォーク、今年は夏の須磨海岸で行います。浜での昼食炊出し予定。誰でも集まれ!

とき：8月30日(日)午前10時～

ところ：JR須磨駅浜側集合

## 第3回 草の根生活塾ご案内

小中高生を対象にした農業を体験し、アジアのことを学ぶ合宿「草の根生活塾」を今年も行います。農家滞在、アジアの村のスライド、アジア料理、マキ割、風呂タキ、自炊で、マチでの生活をふりかえる一味違うプログラム。

とき：8月5日～9日(4泊5日)

詳しい案内を用意しています。申し込み、お問合わせは、PHD協会 藤野まで。

## PHD Tシャツにシンハリ語版加わる!

好評をいただいているPHDオリジナルTシャツ、アジアシリーズ。従来のネパール・タガログ・インドネシア・タイ・カレン・

少女の6種に加えて、シンハリ語版(スリランカ)がラインナップに参加。バウダグレー地、S・M・L寸、2000円でおおけします。もちろん収益は研修生を支えるために用いられます。

## スマトラの漁村を訪ねる旅 PHDスタディーツアー

帰国したユリ・タムリン君を訪ね、アリ・ムルティム君の村へ行き、そして来年の研修生を選ぶため、西スマトラへの旅をします。

期間/8月25日(火)～9月6日(日)

行先/インドネシア、西スマトラ州の漁村

費用/約30万円 定員/10名

詳しくは、協会事務局にお問い合わせ下さい。

## PHDの仲間がカレー屋でPR

「出会いの表現、表現の出会い」のテーマのもと60のグループ・団体が共同して、5月3・4・5日の3日間、神戸市東灘区の会場で「関西ミニ・メディア祭り」を行いました。PHDの仲間はアレコレ考えた末、「舌からのアジア」に話しがまとまり、カレー屋を出展。前日の仕込みをあわせ4日間で延べ60名の人手と、米、香辛料・紅茶などの差入れの協力を得て華々しくオープン。初日ネパール風、2日目タイ風、3日目再びネパール風の日替りメニューを多くの人に味わっていただきました。途中、ご飯がキレ、あわてて弁当屋に走るなんてこともありました。約500食を出し、大成功。小学生・高校生・大学生、OL、主婦など様々な層の参加によって、PHDをそしてアジアを知っていただく催し。今後いろいろ

いろいろなアイデアでせまります。

## PHDアジア・スタディーツアー予告

年末に次のコースを予定。帰国研修生の村を訪ねます。アジアの草の根に学ぶチャンス。

期間/12月下旬 7～10日間

行先/タイ北部

費用/約16万円



前号で新しい事務所の移転をお知らせしましたが、さらに23号で一層その様子を、雰囲気を知っていただくことと特集として扱ってまいりました。イラストに描かれている様な事務所内、PHDの仲間達の皆さんといっしょにはのほのとした雰囲気(時には修繕場のごとく……)のなかで作業を進めたり、中・高校生との交流の場として、学習会やPHDセミナーの場として利用され始めています。また、馴染深い今までの国々に加えて南太平洋のパパニューギニアの人々との草の根の交流・協力から新たな輪の拡大が、そして、スリランカのボヤワラチ村からチャールズさんを迎える様な様々な方向にむけて運動が一段と広がろうとしています。

このPHDレターが報告書としてではなくこの温もりの通い合うレターであり続けるために皆さんからの便りを待っておりますので、ヨロシク。(袖)

レター<23号>編集メンバー  
赤松美子 加藤善美子 袖岡 信明  
浜 光子 金平 千穂 其原 直子  
得原 輝美 川那辺裕子 豊島 環子  
榎原 靖子 芝 美代子 (五十音順)

訂正：PHDレター22号6ページの写真説明のうち「アジアを考える会(九州)」が「高橋中学校(長野県)」にての開催でした。お詫言ひさせていただきます。